

外国から見た日本

世界の人たちは日本人をどのように思っているのでしょうか。私が良く聞くことは、「技術の進んだ国」「平和な国」ということです。日本は「科学技術立国であり、平和国家」だと思えます。

多くの国でよく聞かれることは、「戦争で負けて、かつ資源のない日本が、戦後どのように復興し、さらにはどのようにして高い水準の技術を得て、素晴らしい製品を作ったのか」ということです。世界には戦後なかなか復帰できない国があります。戦後も紛争が続き、経済が破綻して、貧しい国となっている国も多々あります。日本が戦後世界第二の経済大国になったことは、世界の多くの人々にとってはなかなか理解できないことであり、また奇跡的なことなのです。「日本人はまじめだからか、頭がいいからか、長時間働くからか」とか、いろいろと言われます。私はなぜだかいつもうまく説明できません。なぜなら「日本人そのもの」が日本を「科学技術立国に育て上げた」からです。何もないところから、世界最高レベルの製品を作り上げる日本人は、日本人そのものの姿であり、日本の象徴なのです。

リビアでこのような体験をしました。遺跡を回っているときに、あるリビア人の男性が私に声をかけてきました。「あなたはジャパニーズか」。私はそのときリビアの民族衣装を着ていましたが、その人は私が日本人だとすぐわかったのです。背が高くハンサムな青年は、父親が外交官で、幼少のころは日本に住んでいたとのことでした。私は日本のことを良く知っているこの男性に、ある質問をしました。「リビアは天然資源も豊富で、教育は大学の博士課程まで無料で、医療もすべて無料。税金もないとか。日本から見たらとても恵まれている国なのに、なぜあまり物作りが進んでないのですか」と。するとその男性は笑いながら、「特に理由はないさ。国民性の違いだけさ。日本人のように勤勉に、じみちに努力する国民性があれば、リビアはとっくに技術立国になっていたよ」とわかりきったことを聞かれたごとく、あっさりとしたのです。日本に住んだことのあるこの男性は、日本人という国民性が世界中の人々が好むような高品質の物づくりを可能にしていることを、如実に説明したのです。

しかし、今の日本は物作りから遠ざかっているように思います。その大きな原因は、製品を安く売るために、物作りを近隣諸国に依存しすぎているからです。質がよくても高くても売れないのは誰もがよくわかっていることです。でも純日本製品を待ち望んでいる人たちが世界にはまだいることをわすれてはならないと思います。安く販売する商品も必要で

すが、高くても質の良い製品を、日本は世界にどうどうともっと多く届けるべきだと思います。

イエメンでこのような体験をしました。まだ 25 歳くらいの男性の私のガイドさんがたまたまカメラもビデオもついている私の携帯電話を見たときに、いきなり「買わせてくれ」と言ってきたのです。イエメンではもともと外国の携帯電話を使っているので、値段は高いとのこと。同じ高いのであれば、他の携帯電話にはつてないいろいろな機能がついている日本の携帯電話を買いたいと言うのです。たとえ高くても、数ヶ月お金をためて買うという。若い人たちなら皆そうするよ。とにかく日本製品であれば安心だ。なんせ世界最高の技術の結晶であり、信頼できる日本人が作るのだから。その方がかえって安上がりだよ。そのように言うのです。アラブ首長国連邦では、たまたま私の携帯電話を見た中年の男性が、同じことを言ってきました。その人は「安い製品を買うのは最初はよくても、後が困る。故障はするし、機能もよくないし、なんせ使いかかって悪い。それを考えればたとえ安くても値段に合わないよ。日本の製品であれば、たとえ高くてもその分、保険をかけていると考えれば、決して高くないよ」と言ってきたのです。また「たとえ日本人より貧しいからといって、まったく日本製品を買えないわけではない。良い製品であれば、何ヶ月たってもお金をためて、自分達は買いたい。価値があるものには、お金と努力をかける価値は十分にある。だから日本は純日本製品をどうどうと世界中に届けるべきだし、日本人はこのことを知るべきだ」と、この男性は延々と演説を始めました。

日本人が日本人の手で作り上げる質の高い純日本製品は、日本の技術であり、日本の文化であり、日本の象徴なのです。日本は日本の物作りの原点に戻って、誇り高き日本製品を誇り高き値段で世界に届けるべきだと思います。

次に、日本は「平和な国家」という話です。はいろいろな国で、「日本人と一緒にいると安心でき、緊張もなくなる」とよく言われます。それは日本人は「争いごとを好まない、相手を疑うことをしない、相手を尊重する」国民だからだと言われます。そのような日本人の姿が相手を安心させ、なんとなく仲間意識を導きだすようです。私はあらゆる世界で、ガイドさんとか運転手の自宅に招待されます。家族全員で迎え入れてくれ、食卓で家族と一緒に食事をし、民族衣装も着させてくれました。モンゴルでも、イランでもリビアでもそのようなことがありました。

また「日本は安全な国なのか。夜一人で外を歩けるほど治安がいいのか。落し物をしても本当に戻ってくるのか」ということも、確かめるかのように聞いてくるのです。なぜこのようなことを聞いてくるのか最初は不思議に思ってましたが、このような経験をしたことがないから、聞いてくるのです。そのような人が世界には大勢いるのです。海外では物を

落とせば、誰かに寄付したと思って忘れるのが当たり前。探すほうがおろか。夜一人で道を歩くのは、無防備。危険な目にあってもそれは自業自得。そのような国が本当に多いのです。だから日本のように治安がよく安全な国をととても羨ましく思い、日本をそのような国にした日本人をととても尊敬しています。和を尊び争いを好まない日本人だからこそ、このような国が生まれたのであり、これも日本人そのものの姿だと思います。

しかし最近日本では「安全」が「神話」となり、「安全な国の姿」が崩れ去っています。これは日本人としての本質を失うものであり、いち早く治安をよくし、安心して住める日本に軌道修正すべきだと思います。

また私を含めて現在の若者は、技術力があり、かつ平和な日本を築いてきた日本の先人に感謝することを忘れてはならないと思います。戦後、先人が平和な道を歩むことを選んだからこそ、今の私達は紛争や貧困のない恵まれた国に生きているのです。若い世代はこの平和な心を引き継ぎ、決して忘れてはならないと思います。「平和ぼけ」という言葉も聞きますが、それは決して悪いことだけではないと思います。平和慣れしてしまっ、相手を疑うことや、相手と争うことを知らないのだから、争いは起こりません。平和は平和な心でしか達成できないことを、日本人は世界に「自らの姿で」立証しているのです。

最近、日本のアイデンティティーが失われていると言われていますが、それは高い技術と平和な心が失いつつあるからではないでしょうか。日本人が「技術立国・平和国家」を再度勝ち得たとき、日本のアイデンティティーを明確にできると思います。